

令和元年度病害虫発生予報第11号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
きゅうり	べと病	並	並
	うどんこ病	少	少
	褐斑病	並	並
	菌核病	並	並
	灰色かび病	並	並
	ミナミキイロアザミウマ	並	やや多
	コナジラミ類	並	やや多
トマト	黄化葉巻病	並	やや多
	灰色かび病	並	並
	コナジラミ類 (防除情報第20号)	多	多
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	灰色かび病	並	並
	アブラムシ類	多	多
	ハダニ類	多	多
たまねぎ	べと病 (注意報第9号継続)	多	多
	白色疫病	並	並
	ネギアザミウマ	並	やや多

【発生予報】 本文の () 内は平年値

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は3.0%(2.9%)、発生圃場率は25.0%(25.2%)であった。

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.4%(4.5%)、発生圃場率は8.3%(53.8%)であった。

3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.0%(0.2%)、発生圃場率は8.3%(8.3%)であった。

4. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率0.0%)。

5. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率1.0%)。

6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 2月前期の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は1.0%(1.7%)、発生圃場率は33.3%(18.0%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 施設内および周辺の雑草は生息・増殖源となるので除去する。

イ 薬剤の選定は薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない(平成31年長崎県病害虫防除基準P158~163の「作用機構による分類(IRAC)」参照)。

7. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 2月前期の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.8%(0.8%)、発生圃場率は16.7%(16.7%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 施設内および周辺の雑草は生息・増殖源となるので除去する。

イ コナジラミ類は葉裏に多く寄生しているので、かけむらがないように丁寧に薬剤散布する。

ウ 薬剤の選定は薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない(平成31年長崎県病害虫防除基準P158~163の「作用機構による分類(IRAC)」参照)。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 2月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.1%(0.2%)、発生圃場率は25.0%(22.2%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本病の媒介虫であるタバココナジラミの発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

タバココナジラミの防除を徹底するとともに、ハウス内の発病株は二次伝染源となるので、見つけしだい直ちに抜き取り、施設外に持ち出し適正に処分する。

コナジラミ類の防除については令和2年2月17日付**病害虫発生予察防除情報第20号**による。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病果率は0.0%(0.0%)、発病葉率は0.0%(過去7ヶ年平均 0.4%)、発生圃場率は8.3%(同 19.2%)であった。

3. コナジラミ類

令和2年2月17日付**病害虫発生予察防除情報第20号**による。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(26筆)の結果、葉および果実での発生を認めなかった(発病株率0.0%、発病果率0.0%、発生圃場率0.9%)。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(26筆)の結果、発病果率0.1%(0.1%)、発生圃場率は23.1%(18.1%)であった。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

ア 2月前期の巡回調査(26筆)の結果、寄生株率は3.2%(0.4%)、発生圃場率は26.9%(9.3%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

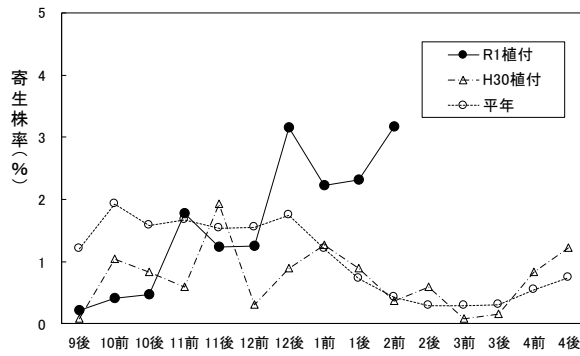


図 いちご アブラムシ類 寄生株率の推移
 平年: H21~H30の平均値(最大・小値除く)

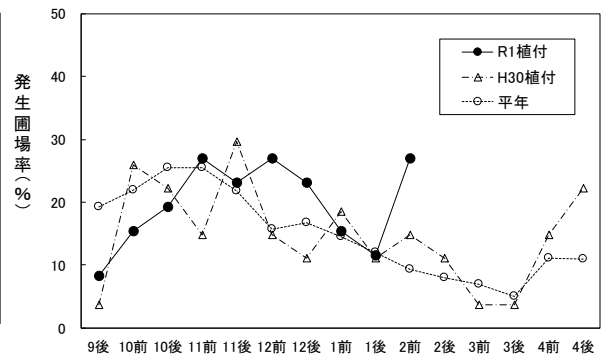


図 いちご アブラムシ類 発生圃場率の推移
 平年: H21~H30の平均値(最大・小値除く)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 花のがくに寄生しやすいので、発生を認めたら初期のうちに防除を行う。
- イ 薬剤のかけむらがあると防除効果が低下するので、葉裏まで十分に散布する。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない（平成 31 年長崎県病害虫防除基準 P220~223 の「作用機構による分類（IRAC）」参照）。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

- ア 2月前期の巡回調査（26筆）の結果、寄生株率は11.2%（5.3%）、発生圃場率は61.5%（40.7%）であった。
- イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

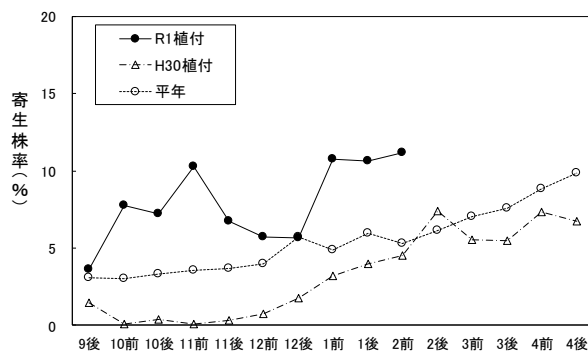


図 いちご ハダニ類 寄生株率の推移
 平年: H21~H30の平均値(最大・小値除く)

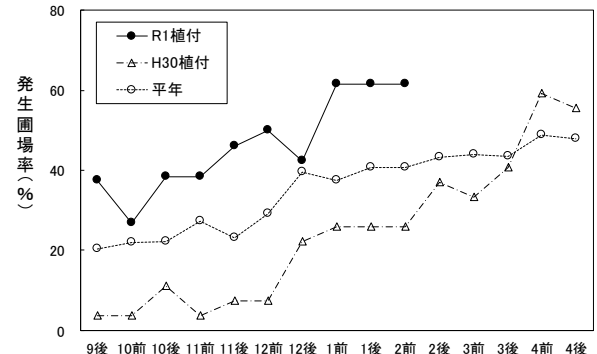


図 いちご ハダニ類 発生圃場率の推移
 平年: H21~H30の平均値(最大・小値除く)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。
- イ 既に多発している圃場では、1回の薬剤散布のみでは薬剤の付着むら等で効果が不十分となる場合があるので、効果を確認しながら数回散布する。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない（平成 31 年長崎県病害虫防除基準 P220~223 の「作用機構による分類（IRAC）」参照）。
- エ 天敵（ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ）を使用している圃場では、ハダニ類の発生状況に応じて天敵に影響の少ない薬剤を使用する。

たまねぎ

1. ベと病

令和2年2月7日付**病害虫発生予察注意報第9号**を継続。
 なお、その後の発生状況については、以下のとおりである。

(1) 発生状況

2月前期の巡回調査（16筆）の結果、発病株率は0.12%（0.01%）、発生圃場率は43.8%（3.3%）であった。

2. 白色疫病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査（16筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率3.3%）。

3. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 2月前期の巡回調査（16筆）の結果、寄生株率は13.3%（11.7%）、発生圃場率は62.5%（52.3%）であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 圃場周辺の雑草は生息・増殖源となるので除去する。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない（平成31年長崎県病害虫防除基準 P270～271 の「作用機構による分類（IRAC）」参照）。